



キルギス共和国日本語教師会会報
第63号 2022年1月5日発行
Вестник Ассоциации
преподавателей
японского языка
Кыргызской Республики
№ 63 от 05.01.2022 г.

Поздравляем с новым 2022 годом



Желаем всем вам добра и крепкого здоровья !



明けましておめでとうございます

✿ 2020年春以降のコロナ禍で活動が制約される中、キルギス共和国日本語教師会も、事業計画の見直しが迫られたり、イベント開催にあたって従来に増して創意工夫が求められたり、会員は活動そのものに対するモチベーション維持にも苦勞する状況です。

✿ ささまざまな困難にもかかわらず、多くの人に支えられ、昨年も実施事業総数は多くはないものの、それぞれ目標を達成できたことを喜びたいと思います。

✿ 会員の皆さん、日本語学習者の皆さん、そして教師会活動に関心を持ってご支援ご協力くださった皆様に感謝申し上げます。

✿ 今年もよろしくお願いたします。

役員および常設委員会代表一同

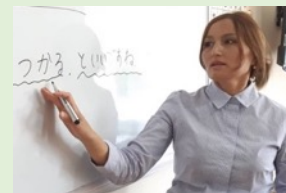
2022年日本語関連事業実施予定

* 開催時期変更の可能性もあります

- 2月：『キルギス日本語教育研究』第6号発行
- 3月：会報 No.64 発行
- 4月：キルギス共和国 2022 日本語弁論大会
キルギス日本語教育セミナー
- 5月：第25回中央アジア日本語弁論大会
(2022年はカザフスタンが開催担当国)
中央アジア日本語教育セミナー (カザフ)
- 5月～12月：隔月開催の教師会勉強会
(「キルギスの日本研究」事業の一環として実施)
- 6月：会報 No.65 発行
- 7月：2022年第1回 J L P T 日本語能力試験実施
- 8月：第6回「日本学・日本語教育国際研究大会」
- 9月：会報 No.66 発行
モスクワ国際学生日本語弁論大会代表選考会
- 10月：モスクワ国際学生日本語弁論大会 (モスクワ)
- 12月：2022年第2回 J L P T 日本語能力試験実施

キルギス共和国日本語教師会のもう一つの拠点 オシュ支部の開設と活動目標

ママーシェワ・ジィデグーリ
キルギス共和国日本語教師会オシュ支部支部長
(オシュ国立教育大学講師)



●2021年10月25日、キルギス共和国日本語教師会定例会議においてオシュ支部の創設が採択されました。オシュ州をはじめとするキルギス南部の日本語教育の一層の普及と教師と学習者に対する支援を目指すほか、支部の活動目標は以下の通りです。

- 支部の会員は教師会主催の日本語教師対象の学術セミナーや勉強会に積極的に参加する
- 支部の日本語教師会合を定期的に関き本部定例会議で報告し、会報に報告記事を提出する
- 日本語を学ぶ学生たちが弁論大会など日本語関連行事に参加するためのサポートを行う
- 日本語弁論大会実施や文化的な行事などの事業実施に際して教師会実行委員会に参加するなど協力を惜しまない
- 支部独自の勉強会や日本語学習に関するイベントを企画する

キルギス南部地域の日本語教育 ①オシュ国立大学

◆オシュ国立大学では、国際関係学部と東洋学歴史学部、それに地域学科という3つの専攻過程で日本語教育が行われている。

◆日本語科は2000年にエセナリエワ・アイグル先生によって開設された。現在、学生数は16人である。



エセナリエワ・アイグル先生

地域学専攻課程



ザリーナ先生と学生たち

◆国際研究学科地域学専攻課程では学生41人が学んでいる。日本語の先生はアサナクノワ・ザリーナ先生である。学生の多くは京都民際言語学校との留学協定に基づいて派遣されている。

◆また、夢橋トレーニングセンターのインターシッププログラムもあり、インターンとして派遣された学生は日本企業から高い評価を得ている。



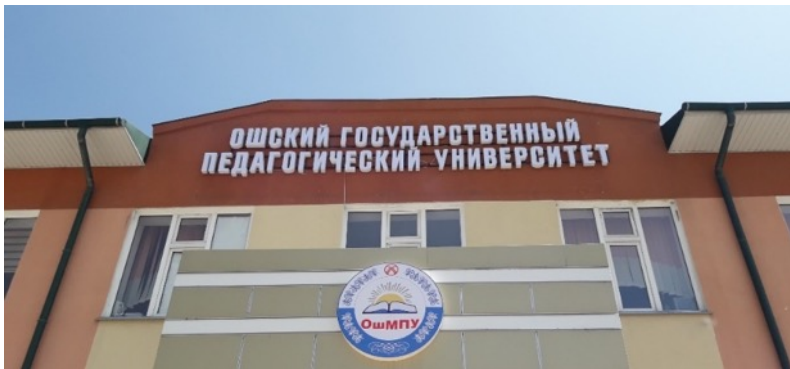
東洋学部

◆大学付属東洋学部のカレッジでも日本語が第2外国語として学ばれている。学生は25人である。指導にあっているのはアルズクル・クズ・ヌルミラ先生である。

◆この5年間でみれば留学制度だけでなくオシュ市でも技能実習プログラムで日本に行く若者が多くなってきている。昨年9月にはオシュ日本コミュニティが設立され定期的な交流会や日本語イベントを実施している。

キルギス南部地域の日本語教育 ②オシュ国立教育大学

◆キルギス南部地域ではオシュ国立総合大学のほかオシュ国立教育大学でも日本語教育が行われている。



◆オシュ国立教育大学は、1924年キルギス南部地域で初めて設立された大学である。主要学部は人文学部、キルギス・ロシア学部、英語学部である

◆2016年、日本技術研修への送り出し機関「オシュ Japan Style トレーニング・センター（夢橋トレーニングセンター）」が開かれたが、開設当時は日本や日本語に興味を持つ若者はそれほど多くはなかった。2018年にオシュ国立教育大学がトレーニング・センターの協定により人文学部内に地域学専攻課程が新たに設けられた。またセンターは昨年12月「オシュ日本センター」に名称変更した。

◆現在在籍している学生は9名だが、将来的には増員を見込んでいる。学生9名のうち5名が日本語能力試験N5とN4に合格していて、在籍者の学習意欲は高い。

◆オシュ国立教育大学にはメケン・キルギス・日本クラブがあり、日本とキルギスそれぞれの伝統文化をモチーフにしたイベントを行い、地域の人々への日本文化紹介、オシュを訪れる日本の方へのキルギス文化紹介をしている。

◆クラブにはダンスグループ「よきこいソーラン」がある。ダンスグループに続いて、日本のアニメに触れたのが日本語を学ぶきっかけだったという学生たちの要望で、近々アニメファンクラブが作られることになっている。



◆10月末に実施されたモスクワ国際学生日本語弁論大会代表選考会で審査の結果、3学年で学ぶアブドゥモムン・クズ・アイダナがキルギス代表に選ばれた。

◆12月18日オンラインで開催された国際大会でスピーチする機会を得たのは、オシュ国立教育大の日本語教育にとって大きな成功であり、今後の更なる発展への第一歩と言える。指導教員としても、学生の成長と地域における日本語学習者の拡大に向けての活動を続ける上で大きな励みとなった。



筆者（ジィデグーリ）とアイダナ

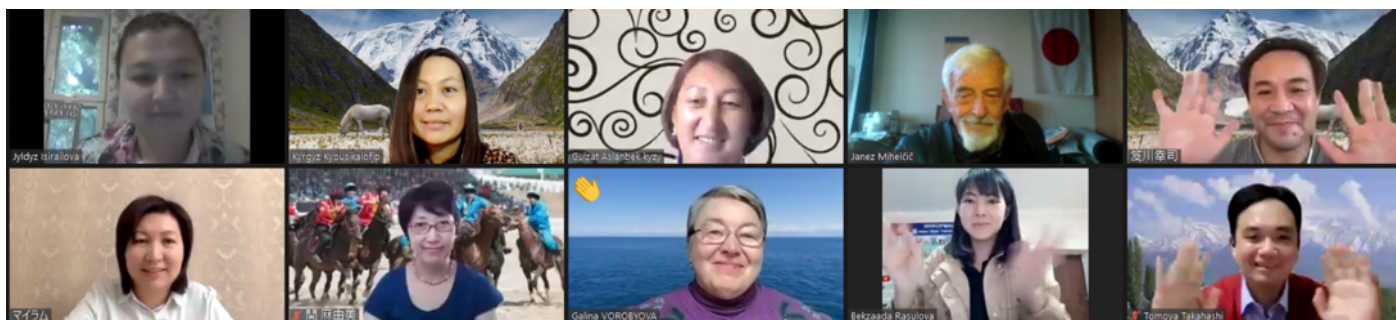


◆オシュ日本センター（旧「夢橋トレーニング・センター」）では日本への留学や技能実習派遣と就職に関するサポート活動をしていて、日本語コースでは訪日前日本語研修も実施している。80人以上がコースで学んでいる。日本語学習の目的は日本留学や日本企業への就職というものが多い。

◆オシュ日本センターはオシュ市の国立メディカルカレッジ2校と協定を結んでおり、介護プログラムのインターンや技能実習生を日本に派遣する事業も実施している。

「第2回オンライン勉強会」開催

10月10日に中国湖南師範大学の笈川幸司先生に講演していただきました。カイロ大学の森田先生による「第1回オンライン勉強会」に続いてJF助成事業「キルギスの日本研究」の一環として開催されたものです。第2回も様々な国からたくさんのお客様にお越しいただき、とても充実した勉強会となりました。



12月25日には、「第3回オンライン勉強会」として国際交流基金日本語上級専門家としてキルギス日本人材開発センターやモスクワ市立教育大学で活躍された黒岩幸子先生に「読解のヒント」のテーマで講演していただきました。黒岩先生による第3回勉強会詳細は、会報No.64でお伝えする予定です。

作文で一番大事なこと

笈川幸司（中国湖南師範大学）

◆私がキルギスを初めて知ったのは、大学時代、旧ソ連から独立を果たした「キルギスタン共和国」という名前がNHKニュースで流れた時です。ヨーロッパ日本語教師会にお世話になっていた時にガリーナ先生のお名前をうかがい、キルギスで日本語教育が盛んに行われていることを知りました。

◆その後、ガリーナ先生と連絡させていただく機会があり、幸いにもコロナが世界を困難に陥れる前にキルギス訪問が叶いました。キルギスの皆様とお付き合いさせていただく機会に恵まれたことを心から幸せに思っております。

◆さて、本講座ですが、「作文の秘訣」についてお話をする機会をいただきました。「作文の添削が大変だ」と悩む日本語教師がキルギスにもいると知り、以前、漫才師をしていた私が、日本語教育とは違った角度からキルギスの日本語教育に貢献できることはないだろうかと考え、スピーチ大会で優勝者を輩出していた頃に使っていた秘訣公開に踏み切りました。

◆子育ても学生への指導も同じですが、「頑張る精神」「我慢する精神」はもちろん大事ですが、日本人や日本に関わる海外の皆さんは、あまりにも精神的なものに頼りすぎているように感じていました。もし、ノウハウ、つまり良い方法を、悪い言い方をすれば、テクニックを知っていれば、我慢の限界により、教師と学生が信頼関係を損ねることはないと思いますし、教師の負担も学生の負担も大幅に減らすことができます。日本語学習を続けようとする学生、日本語を教えたいと思う学生も増えるはずで、そこで、作文のテクニックをキルギスの皆さんにお話することにしました。

◆講座の中でお話しましたが、作文で一番大事なことはテクニックではありません。しかし、テクニックのない人間が、この話をするのはおこがましいと考えておりましたので、テクニックについても話し、皆さんにご理解をいただいた上で、一番大切なことはテクニックではなく、「情熱」「熱い思い」「熱い気持ち」「強い思い」、まとめると「愛」が大切だと話しました。

◆キルギスの皆さんの反応はどうだろうかと心配しましたが、幸い、皆さんから暖かいコメントをたくさんいただきましたので、このイベントに参加することができて、本当に良かったと思います。

実は、日本語を教える中で、発音指導のテクニック、学生の日本語力を短期間で大幅に引き上げるテクニックなど、お話したかったことがたくさんあります。しかし、これらをネガティブな感情で誤解されてしまうかもしれないと恐れ、なかなか皆さんにお話しできませんでした。

◆日本語教育で、教師がマスターすべき最も大事なものはテクニックではなく、やはり「熱い思いだ」ということを前提とさせていただきたいですが、テクニックを知り、習得し、実践することで、教師と学生の負担が大幅に減ります。

◆ですので、いつか機会がありましたら、キルギスで教師研修などをさせてください。



* * * * *

10月の勉強会の感想

J. ミヘルチッチ (キルギス・ロシア・スラブ大学准教授)

◆キルギス日本語教師会が10月10日に催した勉強会に参加して、良かったと思います。笈川先生の講演のテーマは、スピーチや作文の書き方でした。講演は分かりやすく、役に立つものでした。



◆「起承転結」という表現を聞いて、これは小学校で習った、作文の「始まり」、「本文」、「終わり」に相当するではないかと思いましたが、講演者が指摘した様々な作文の側面が興味深かったです。例えば、作文は「ネガティブな話でスタート」するとか、「明るい未来」で終わるとかは、聞き手の注意を引くし、伝達の力があると思いました。

◆作文を書くことになると、私を含めて、苦手の人が多いようですが、書き方の理論を習得して、練習すれば、熟達できるかもしれません。

◆重要なのは、伝えたい課題の内容だと思います。つまらない内容を上手に伝えたとしても、何の役に立つでしょうか。しかし、良い考えを下手に提供して、分かってもらえなかったら、それはとても残念だろうと思います。

◆ですから、スピーチや作文の書き方は勉強したほうがためになります。勉強会に参加した人が少なかったことも残念に思っています。

勉強会で学んだこと

ママーシェワ・ジィデグーリ (オシュ国立教育大学講師)

◆2021年10月10日、笈川先生によるオンライン勉強会が実施されました。参加者は26人でキルギス国内外の日本語の教師たちが参加しました。テーマは作文の書き方についてでした。

◆作文の書き方については四つのポイントがあり、その1番目は暗い話(短く)、2番目はきっかけ(出会い)、3番目はターニングポイント、そして4番目はまとめ&明るい未来(決意)、というふうに分けられていることがわかりました。

◆暗い話は2つの文章だけで十分で、きっかけは「いつ、どこで、誰と誰が、どうした、どうだった」と、うまくいかなかった情報を詳しく書くことと、ターニングポイントは読み手に劇的な変化が起きたことがわかるように書くことで、最後に明るい未来を短い言葉で書くこと、という内容でした。

◆以上の4つのポイントで作文は簡単に書くことができると教えていただきました。書かれた作文の例もいくつか出されました。その中で私が気に入ったのは、「二人の先生の笑顔が私に大切なことを教えてくれた」という中国の学生が書いた作文でした。

◆勉強会で次に学んだことは3分間のプレゼンテーションの発表の仕方です。最初にびっくりさせるテーマを選ぶことが大事で、例えば「高齢出産はすばらしい」というくらいのインパクトがあって聞き手に期待を抱かせるようなプレゼンテーションをすると面白いし、聞きやすいということがわかりました。



◆そして、先生のお話で、ディベート大会の前に朗読をしましょうというテーマで聞き手に理解しやすく発表しなければいけないことがわかりました。また、スピーチやディベートでは相手を尊重しながら会話を進めることが大事で、やさしい態度と話し方、そして、誠実な笑顔で質問しながら話をするのがいいということでした。

◆勉強会は、我々日本語教師にとって文字通りいい勉強になりました。作文の書き方、プレゼンテーションでの効果的な発表の仕方、ディベートやスピーチでどうやって話すべきなのかもわかりました。

第2回オンライン勉強会について

ベクザーダ・ラスロヴァ (オシュ国立教育大学附属オシュ日本センター講師)



◆私も留学生時代に弁論大会に参加したことがあって、そのときは私の作文を日本語の先生が直してくれたので、作文の正しい書き方とかを知らなかったんです。でも10月10日に行われた勉強会のおかげで、作文のたくさんのポイントがわかりました。スピーチをするときは、感情が一番大事だということも忘れないようにします。学生のサポートにもできる限り応用していきたいです。

◆勉強会に参加させていただいてどうもありがとうございました。

「第2回オンライン勉強会」に参加して

◇2021年10月10日(日) 笈川先生によるオンライン勉強会が行われました。勉強会のテーマは作文の書き方、発表の仕方についてでした。

◇作文を書くとき暗い話から始めると聞いている方によく興味持ってもらえる、そしてどんどん話を進んでいけば言いたい事をスムーズに伝えられるということが一番良いポイントの一つだと感じました。

◇外国人の場合は作文を二つ出しても大丈夫というのは、ありがたいです。先生のお話によりますと、学生たちが書いて、先生と話合っただけで直したりする前の作文と先生と相談したりしてからの作文の二つです。そうすれば、学生が書いたものはただの作文じゃなくて、その国の習慣や特徴まで伝えられる作文になるでしょう。普通の日本人には理解できないかもしれませんが、外国人に日本語を教えている方なら理解してもらえらるだろう、とのことでした。



◇発表するときは、やはりイントネーションが大事だと思います。イントネーションが良ければ良いほど言いたい事をよく伝えられるんじゃないかなと思います。

◇勉強会で教えて頂いた事を学生たちに伝えて、学生たちも良い作文が書けるように一生懸命頑張ってくれたら嬉しいです。

◇第2回オンライン勉強会に参加させて頂きましてありがとうございます。これからもよろしくお願い致します。

アビジラジモフ・ヌルスルタン

オシユ国立教育大学附属オシユ日本センター講師



Бессонова Елена Юрьевна

Доцент кафедры японской филологии ИСАА МГУ,
Кандидат филологических наук

Спасибо большое за организацию лекции по написанию сочинений.

Было все очень хорошо организовано, тема актуальная. Отдельное спасибо за оперативно присланный раздаточный материал.

Преподавание письменной речи - одна из важных задач в процессе обучения японскому языку. Однако вводить в учебный процесс аспект "сочинение" достаточно трудно, так как возникает проблема "неестественного языка", трудны сочинения и для оценивания.

Поэтому предложенный лектором шаблон написания сочинения безусловно поможет студентам в освоении аспекта "сочинение", а преподавателю в оценке созданного текста.

Как художник сначала учиться рисовать определенные формы и линии, так и студенты могут начинать с шаблонов, постепенно переходя в творческое поле, но при этом уже научившись правильно строить предложения и мыслить на "естественном" японском языке.

Спасибо организаторам и лектору.

ベッソーノワ・エレーナ

モスクワ国立総合大学附属アジア・アフリカ諸国大学
准教授、Ph. D (文献学)

◇作文の書き方についてのレクチャーを実施していただき、ありがとうございました。

◇とてもよく構成されており、テーマも適切だったと思います。また、資料を配布していただいたことに特に感謝します。

◇日本語教育において、「書くこと」の指導は重要な課題の一つですが、往々にして「不自然な言葉遣い」をどうするかという問題があり、それだけに評価も難しいため、作文指導を教育現場に導入するのはかなり難しいものです。

◇ですから、講師の笈川先生が示してくださった作文の模範例は、学生にとっては作文の書き方を習得する上で、また教師にとってはできあがった文を評価する上で役立つのはもちろんです。

◇つまり、アーティストがまず決められた一定の形や線の描き方から学んでいくように、作文の模範例を参照しながら始めて徐々に独自の創造的な分野に進むことができますし、それに加えて正しい文章の組み立て方や「自然な」日本語での思考を身につけることもできるのです。

◇主催者の皆さまと、講師の笈川先生に感謝申し上げます。

勉強会で学んだこと

～大切にしたい：文に書くことも、声で伝えることも～

バザルクロフ・デニス（ビシケク国立大学3年）

▷勉強会のおかげで私は初めて作文の書き方の秘訣を教えてくださいました。笈川先生の話聞くまでは、まったく知らなかったことです。勉強会に参加できなかった友人たちに「こんなふうを書くといいよ」と教えてあげたくなりました。

▷勉強会では、笈川先生が作文を読み上げるのを聞いて、改めて発音の大切さに気付きました。参加者の反応も全体の雰囲気もとても良かったと思います。勉強会で笈川先生が使った資料は、あとで参加者全員に配信されました。

▷このような素晴らしく役に立つイベントに参加するよう勧めてくれたビシケク国立大学の日本語日本文学研究講座の先生方に感謝したいです。

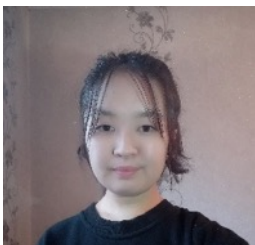
▷また、貴重な機会を提供してくださってキルギス共和国日本語教師会の実行委員の皆様、心からお礼申し上げます。大変勉強になりました。ありがとうございました。



自分の考えをどう表現するか

～学んだこと、考えたこと、そして実践してみたいこと～

アルマシェワ・マリカ（ビシケク国立大学3年）



▷10月10日の講義は、とても興味深く新しく、勉強になりました。

▷私たちは笈川先生による勉強会で正しい書き方と自分の考えを表現する方法を教わりました。作文パターンやお手本が用意されており、わかりやすかったです。

▷勉強会では、お手本を読んで終わりではなく、先生とやりとりし誤解しそうな部分を理解することができました。

▷勉強会は何度もセッションルームに分かれて、学んだことについて意見を出し合い整理していききました。

▷最初にセッションに別れた時、運よくネイティブスピーカーとプレゼンテーションについて意見交換できました。聞かれたことが分からないでいると、先生がゆっくりと簡単な言葉で説明をし

てくれるので、私は傍観者のままではなく、実際に会話に参加することができました。

▷2回目にセッションに分かれたときは、日本語の音声に少し耳が慣れてきたせい、先生の声がよりクリアに聞こえてきました。ですから、日本語でコミュニケーションすることがとても面白くなりました。

▷どこで勉強しているのか、いつから日本語を勉強しているのか、日本語を学ぶ上で難しかったのはどんなことか、といった質問や、ことばを正しく発音することが大事だとの指摘もありました。

▷ネイティブスピーカーとただおしゃべりするのではなくディスカッションする機会を与えてくださった教師会の先生方に感謝します。勉強会に参加して貴重な経験を積み、多くのこと、興味深いことを学びました。特に、弁論大会のスピーチ原稿を書くときには、学んだ方法を実践すれば必ず効果があると思いました。

大切なのは作文に込めた熱い思い そして、それをいかに伝えるか

ベイセムビノフ・スレイメン（ビシケク国立大学3年）

▷日本語教師会主催の第2回オンライン勉強会では、作文とスピーチ構築のための必須テンプレートがテーマでした。

▷講師の筈川先生もおっしゃっていましたが、提示されたテンプレートは「日本語弁論大会」のスピーチ原稿を作文するための良い土台となります。セッションでは、ストーリーを面白くするために、どこで始めて、どこで終わるのか、文章構成の工夫について教えてもらいました。

▷また、何より重要なのは作文に込めた思いであって、それを読んでくれる人や聞いてくれる人に十分伝わるようにしなければならない、と先生は付け加えました。筈川先生の話聞いて、今までの自分の作文の構成方法に何が不足しているのかわかりました。ただ自分でそんな気がするだけなのかもしれませんが、参加した人それぞれに新しい発見があったかもしれませんね。

▷また、提示された作文のパターンについて他の参加者たちと意見を交換したり深く考察したりすることができました。読み聞かせてもらった作文は、文章も美しいし作者の気持ちや感情がよく伝わってくるので、深く印象に残りました。日本語を勉強している人には日本語弁論大会に挑戦したらどうですか、と勧めたくなりました。



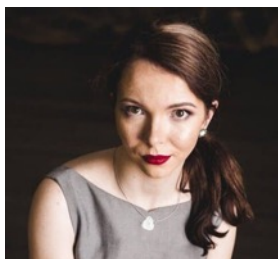
▷勉強会で新たに得た情報について参加者たちと詳しく検討する際に妨げとなったのは、ネットの不具合という問題でした。インターネットが、悪天候のせいなのか、どうまくつながらないことがあっただけです。それ以外で言えば、もちろん、今回の勉強会は私にとって非常に印象深いものでした。

▷勉強会で新たに得た情報について参加者たちと詳しく検討する際に妨げとなったのは、ネットの不具合という問題でした。インターネットが、悪天候のせいなのか、どうまくつながらないことがあっただけです。それ以外で言えば、もちろん、今回の勉強会は私にとって非常に印象深いものでした。

作文に特別なテクニックはない ～書くことが上達の秘訣～

ウィレンスカヤ・ユーリヤ

ビシケク国立大学大学院生（東洋学・国際関係学研究科修士課程）



▷10月10日、「日本語学習」と「研究の夢」がテーマの「第2回オンライン勉強会」に参加しました。

▷講師の筈川先生は、話し方にしても文章の読み上げにしてもとても感情豊かで、必要に応じてイントネーションを上げたり下げたり自由自在、アピールする方法を本当によくご存知です。

▷先生が作文を読み上げるのを聞いていると、まるで自分が物語の中にいるように思えてきます。

▷筈川先生は、躊躇することなくストレートにプレゼンをします。魂のこもった話し方に、私は本当に感動しました。パフォーマンスの巧みさという点では、先生にかなう人はいないと思います。

▷作文を書くことを自分では難しいと思ったことはなかったのですが、先生のおかげで大切なことをたくさん学ぶことができました。先生がおっしゃるように、作文に特別なテクニックはありません。でも、書けば書くほど、上達することは確かです。

モスクワ国立総合大学が開催した オンライン方式研究大会に参加して

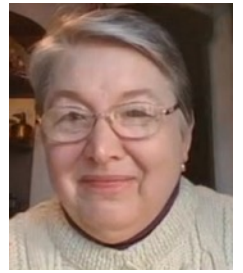
ヴォロビヨワ・ガリーナ、PhD

◆2021年10月29～30日にM.V.ロモノーソフ・モスクワ国立総合大学附属アジア・アフリカ諸国大学とロシアおよび CIS 諸国日本語教師会と国際交流基金モスクワ事務所の共催で日本学・日本語教育学国際研究大会が Zoom と Microsoft Teams というコラボレーションプラットフォームで実行されました。参加者は約170人でした。

◆1日目にはパネルセッションがあり、その後同時に2つの発表のセッションが行われました。2日目には同時に3つの発表のセッションが行われました。発表時間は質疑応答を含めて15分で、発表20分質疑応答10分の形に慣れているのでとても短く感じました。ロシアにおける日本語教育の歴史、日本語教育方法論、日本文化研究、日本語教育における文化的側面、教授表、教材作成、会話能力育成などに関するテーマに4か国（ロシア、日本、ウズベキスタン、キルギス）の56人の研究者や日本語教師が発表しました。残念なことにウズベキスタン（1人）とキルギス（1人）以外 CIS 諸国からの発表者がいませんでした。発表は主にロシア語でされて、数人の日本人は日本語で発表をしました。

◆様々な発表が多くて、全部を聞くことはできませんでしたが、私にとって興味深かったのはロシア科学アカデミーのアルパートフ・ヴラディーミル教授の「日本文化研究のアプローチ」、モスクワ国立総合

大学附属アジア・アフリカ諸国大学のネチャエワ・リュドミーラ教授の「私たちの先生方の日本語教育方法論的遺産」、モスクワ市立大学のサヴィンスカヤ・アンナ先生の「大学の日本語指導で慣用句使用の言語文化的な意義及び教育的な意義」、神田外語大学の高橋亘先生の「やさしい読みものを楽しくたくさん読む日本語多読活動—近年の実践を例に一」というテーマの発表でした。私の発表のテーマは「常用漢字の画の使用頻度の経験的法則への適合性」で、Zipf の法則、Menzerath-Altman の法則及び Pareto の法則への適合性を対象に話をしました。司会者のサヴィンスカヤ・アンナ先生のコメントとチャットに届いた津田塾大学の関先生のコメントを受け取って刺激になりました。



◆最近コロナ禍のせいでどこへも行けなくなって様々な国でオンライン方式の研究大会が開催されるようになり、参加したり発表したりする可能性が急激に増えてきて世界がもっと狭くなったような感じです。パンデミックが終わってもオンライン方式で実行される研究大会が続くと期待しています。

◆モスクワ大会の実行委員会の皆様、発表をさせていただき誠にありがとうございました。



キルギス共和国日本語教師会会報 第63号 (2022年1月5日発行)

編集：キルギス共和国日本語教師会広報委員会《会報編集部》



キルギス共和国日本語教師会事務局 E-mail: kajlt.jimukyoku@gmail.com

賛助会事務局 E-mail: kyoshikai.sanjokai.jimukyoku@gmail.com

会報バックナンバー https://www.evernote.com/pub/tm0y/kyrgyz_vestnik

KAJLT HP <http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com>

ウィキペディア <https://ja.wikipedia.org/wiki/キルギス共和国日本語教師会>

Facebook https://www.facebook.com/JLteachers.association.KR?ref=aymt_homepage_panel

<http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/バックナンバー/>

Вестник Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики

№ 63 от 05.01.2022 г.